

「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



信は力なり! ~One for all, All for one~!

高校ラグビー界にかつて全国制覇を何度も成しとげた京都の伏見工業高校という学校があった。しかし、1970年代には伏見工業は京都一荒れた学校だった。ラグビー部は存在していたものの、悪さをやる中心メンバーが集まった、とても部活動とは言えない状態だった。そこに山口良治さんが体育教師として赴任。しかし、元日本代表だった山口さんの指導を、部員たちは全く聞こうともしなかった。それどころか反発を繰り返し、練習試合もボイコットした。山口さんは相手の学校の部員に、一人ひとり頭を下げて謝った。そして、まとまらないまま迎えた京都府大会。強豪校と1回戦で対戦し、112対0で大敗。試合後、強がって隠していた悔しさを、みんなで涙を流しながらぶつけ合った。そこから部員たちは生まれ変わって練習に努力を重ねていく。ぐんぐんと力をつけていく中、フッと気のゆるんだ部員の一人がタバコを吸ってしまった。あれだけみんなで話し合っ、頑張ると決めたのに…。しかし、この部員を仲間は見捨てることなく、本気のぶつかり合いでチームに呼び戻す。別の一人はバイクで事故を起こし、けがを負ってしまう。山口さんは「お前の体はお前だけのものじゃない。15人そろって初めてラグビーはできる。…**One for all, All for one!**」と、チームとはただの一人の存在も欠かせないんだと伝える。きっと何度もこんな「絆づくりの壁」をみんなで乗り越えたんだろう。練習に明け暮れた自分たちの努力を信じ、壁を乗り越えた仲間を信じ、わずか1年後にはあの強豪校に18対12で勝利し、京都NO.1となった。その数年後には、後輩たちが全国制覇を成しとげる。ユニフォームには「**信は力なり**」の文字が刻まれて。その後輩の中の京都一のワルと恐れられていた一人は、先輩たちが優勝して抱き合っ泣く姿を初めて見て、「勝っても、あんなふうに泣けるんや」と心をふるわせたという。ラグビーに夢中になっていったその人は、高校日本代表にも選出され、その後自分と同じような生徒が集まる高校の体育教師となっていく。この伏見工業・山口良治さんの言葉「**一人はみんなのために、みんなは一人のために! ~One for all, All for one! ~**」を、県総体予選に立ち向かう一中生に贈る。頑張れ、一中!

いよいよ明日は県総体津久見市予選。伏見工業ラグビー部の話は、県総体予選前によく学級でしてきた。「**信は力なり**」、この言葉にはいろんな意味が込められていると思う。これだけ練習してきたんだから大丈夫と自分に言い聞かせていくことで、不思議とその通りになったり、落ち着いてプレーできたり。仲間の「ドンマイ、大丈夫」の声かけやその存在で切り替えることができたり…。でも、やはりわが一中では、「**信じるとは、相手への期待ではなく、自分への決意だ!**」ということも忘れてはならないよな。例えどんなに厳しい試合展開になろうとも、苦しい状況になろうとも、自分は決意した通りあきらめない、声を出し続ける、笑顔を忘れない…。そんな「**断固たる決意**」が集まれば、こんなすごい力はない。**信は力なり!**一生一度っきりのこの仲間との瞬間は、二度と戻ってこない。とことん熱い一日にしよう。

熱くなれる瞬間を絶対にのがすな!

もし、思うようなゲーム展開にならず、未熟な自分の心、自己中心の自分、こんなものがフッと顔をのぞかせそうになったら、仲間の顔を見るんだ! ベンチの仲間の思いを感じるんだ! 支えてくれた先生・親の声を聴くんだ! 一番大切なものを見失わないように!

美術部の力作、絆の応援旗に、全校生徒の熱いエールが刻まれた! 叶え、235人の熱い思い!

勝負!

テクニックどはない 度腕の差で決まる 